

# 2 人と支え合って

- (1) 礼儀れいぎの意義を理解し適切な言動を
- (2) 温かい人間愛の精神と思いやりの心を
- (3) 励まし合い高め合える生涯しょうがいの友を
- (4) 異性を理解し尊重して
- (5) 認め合い学び合う心を
- (6) 人々の善意や支えに応えたい

## 礼儀に込められた思い

挨拶は自分が行うだけでなく、相手から受けることがある。  
そのとき、どんな思いを伝えようとしているのだろうか。



- 挨拶や、丁寧な言葉遣い、態度を受けて、気持ちが良いと思ったり、うれしいと思ったりしたことを思い出してみよう。

## 礼儀へのためらい

挨拶するのも、応えるのも面倒。  
敬語を使うことが恥ずかしい。  
形だけのお辞儀をしてしまう。  
……そんなことはないだろうか。

- 礼儀の大切さがわかっていても、実際に振る舞えなかったのはなぜだろう。  
振り返って、考えてみよう。

# (1) 礼儀の意義を理解し適切な言動を

私たちは、お互いに気持ち良く過ごすことができるよう  
相手を尊敬する気持ちを  
挨拶や言葉遣い、マナーなどの礼儀を通して表現している。

日本の礼儀は、伝統として永く受け継がれてきている。  
外国にも、形は異なるが、様々な礼儀があり  
お互いを尊重する気持ちが伝わっている。

礼儀は、ただ形にするだけではなく、  
気持ちを込めることによって、相手に伝わる。

様々な礼儀があることを学び、  
その形の根底には相手に対する敬愛の気持ちがあることを理解し、  
時と場に応じた適切な行動がとれるようになりたい。







## 尊敬の気持ちを表す

スポーツにおいて、試合後に選手たちが互いにたたえあう光景には誰もが感動する。音楽や演劇などにおいて、出演者のすばらしい演奏や演技に対して観客が拍手を送ることも、礼儀の一つである。

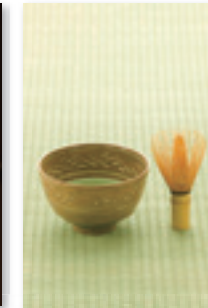
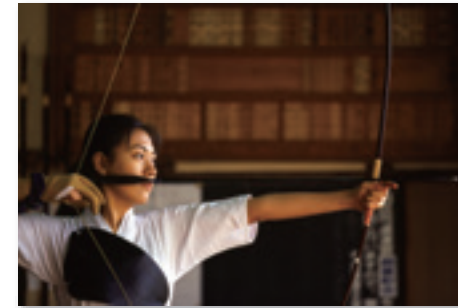
## 私の心を伝えたい

「礼も過ぎれば無礼になる」ということわざがあるとおり、礼儀も過剰になると相手が不快に感じることもある。相手、時と場に応じた、ふさわしい言動が必要である。

また、形だけの礼儀や作法を行う「虚礼」にならないように、相手に対する敬意、思いやり、慎み<sup>つつし</sup>を考えた言動を身に付けていきたい。

- 家族、友達、学校の先生に対して、どのような言葉や態度で接すると、毎日、互いに気持ち良く過ごせるか、考えてみよう。

- 時と場に応じたふさわしい言動をとる上で、これから気を付けたいことを考えてみよう。



## 日本の伝統に息づく礼儀

日本の伝統文化である茶道や華道、武道などにおいては、それを楽しむことや技を磨くことだけでなく、自分を律する心や相手を尊敬し感謝する心を大切にし、それを礼儀の形で表している。

## 外国の礼儀・マナー

国や民族にはそれぞれ独自の伝統や習慣があり、日本とは形が異なる場合も少なくない。

例えば、外国には

- ・知らない人同士でも朝の挨拶を交わし合う
- ・挨拶の際に自分の両手を合わせる
- ・右手でしか食べ物を取らない

などの様々な礼儀やマナーがある。

外国の人と接する機会が増えた今日、それぞれの礼儀やマナーがあることを理解し、相手の立場を考えて接することが大切だ。



## saying

この人のひと言

人の礼法あるは水の堤防あるが如し。  
水に堤防あれば氾濫の害なく、人に礼法あれば悪事生ぜず。

貝原益軒

■かいばら えきけん (1630~1714)  
江戸時代の儒学者。『養生訓』など。

信実と誠実なくしては、礼儀は茶番であり芝居である。

新渡戸稲造

■にとべ いなぞう (1862~1933)  
農学者、教育者、外交官。『武士道』『修養』など。

私たちがみんなで、  
小さい礼儀作法に気がつけたなら、  
この人生はもっと暮らしやすくなる。

チャップリン

■チャールズ・チャップリン (1889~1977)  
イギリスの映画俳優、映画監督。  
『モダン・タイムス』『独裁者』など。

● あなたの見付けた言葉、考えたこと。

## message

メッセージ

礼儀作法というものは、決して堅苦しいものでも、単なる形式でもないと思います。それはいわば、社会生活における潤滑油のようなものと言えるのではないのでしょうか。

職場では、性格や年齢、ものの考え方など、いろいろな面で異なる人びとが相寄って仕事をしています。そのお互いの間をなめらかに動かす役割を果たすのが礼儀作法だと思っております。

ですから、礼儀作法というものは、当然、心のこもったものでなければなりません。心に思っているだけでは潤滑油とはなり得ません。やはり形に表わし、相手に伝わりやすくし、心と形の両面があいまった適切な礼儀作法であつてこそ、はじめて生きてくると思っております。



礼儀作法は  
堅苦しいものではなく  
単なる形式でもない、  
社会生活の潤滑油です。

松下幸之助

●和歌山県出身。実業家。15歳で働き始め、安全に電球の着脱ができるソケットを考案し、大正7(1918)年、その製造販売の会社を3人で大阪に設立する。●数多くの電気製品を世に出す一方、昭和21(1946)年、物心両面の繁栄によって、平和と幸福を、という理想を掲げた研究所を設立した。



ニューヨークにおける松下さん(中央)

松下幸之助 (まつしたこうのすけ) 1894~1989



## 「思いやり」って……なんだろう？

相手のためにと行って  
行くことでも、  
そのときの状況や  
その人の気持ちや  
本当に考えているだろうか。  
相手から頼まれて行くことでも、  
本当にそのことが  
相手のために  
なっているだろうか。  
自分が相手の立場だったら  
と考えて、  
互いに支え合えたら、  
もったいい関係が  
築けるような気がする。



場面2

【場面2】宿題を忘れてしまった友達に、自分の宿題を写させてあげている。



場面1

【場面1】入院している友達を見舞っている人。元気付けようとおしゃべりしているうちに、かなり時間がたってしまった。

●このような場面に出会ったとき、あなたならどうするか、考えてみよう。

人間は、一人では生きていくことができない。  
強さも弱さももち合わせた人間が、  
互いに認め合い尊重し合う  
「思いやりの心」によって  
私たちは支えられている。

思いやりは単なるあわれみとは違う。  
他者の思いやりに触れることで、  
人は感謝の気持ちを抱くとともに  
自分が今こうしてあるのは、  
多くの人に支えられてきたからであることに気付く。  
そして  
自分も誰かを支えたいと願う、  
心を育てていくのではないだろうか。



# (2) 温かい人間愛の精神と思いやりの心を

「賢者の贈り物」

○.ヘンリーの作品より

すぐれた短編小説を数多く世に出した米国の小説家○・ヘンリー。彼の作品は日本でも翻訳され、多くの人に読まれ、愛されています。

日本でよく知られた作品の一つに「賢者の贈り物」という短編があります。主人公は貧しいが幸せに暮らす若い夫婦。この二人こそ賢者だと、作者○・ヘンリーが最後につづるこの作品は、どんなお話なのでしょう。

\*  
月八ドルの安いアパートに暮らす、ジムとデラという若い夫婦がいました。クリスマス前の日、妻のデラは財布の中のお金を何度も数えますが、一ドルと八十七セントしかありません。愛する夫ジムに素敵なクリスマスプレゼントを買うためのお金がたったこれだけしかない、ソファアに倒れ込んで悲嘆に暮れます。彼女はジムのために、彼にふさわしい、素敵で、珍しくて、そして立派な何かをプレゼントしたいと考えていました。しかし、手持ちのお金では、どうにもなりません。

ふと立ち上がり、デラは部屋の窓の

そばにある細長い鏡に自分の姿を映しました。

するとそのとき、自分たち夫婦が二つのすばらしいものをもっていることに気付きます。一つはジムの家に代々受け継がれてきた金の時計。そしてもう一つは、デラの長い髪でした。その髪は、まるで、どこかの国の女王様が身に着ける装飾品のような、いえ、それ以上にすばらしく美しい髪でした。

デラは鏡の前で、その髪をまとめ上げると、「瞬ためらい、涙を浮かべました。しかし茶色のジャケットと帽子をかぶって、ドアを開け、通りへ降りました。

そして「マダム・ソフロニー髪用品ー」という看板がかかっている店の前で足を止め、中に入りました。

「私の髪を買ってくださいますか。」

「帽子を取ってみてください。」とマダムに言われ、デラが帽子を取ると、褐色の小滝がうねるように落ち、すばらしい長い髪が現れました。

二十ドルでデラの髪は売れました。彼女はそれのお金を持ってジムのプレゼント

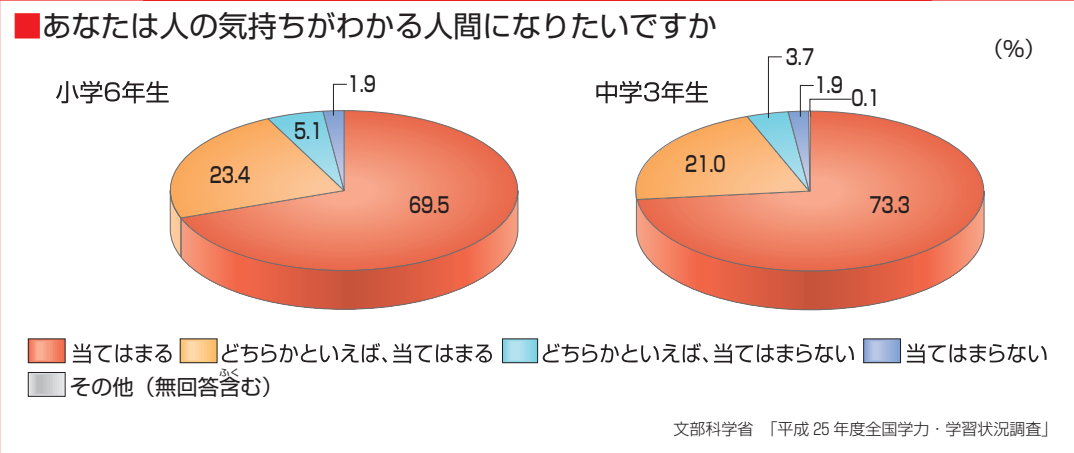
を探して店を見て回りました。

そして彼女はついに見付けたのです。それは、ジムの金の時計にぴったりなブラチナのチェーンで、ジムが使うために作られた物のように思われました。二十ドルでそのチェーンを買って、家に戻りました。髪を切ってしまったことを何と言われるかという不安と、そしてジムに素敵なプレゼントを渡すことができる期待とが入り交る中、夕食の準備をしながら、デラはジムの帰りを待ちます。

家に帰ってきたジムは、デラを見て立ちすくみました。しかし、デラには夫の表情が読み取れません。怒りでも驚きでも落胆でも恐怖でも、彼女が想像していたどれも違う表情なのです。

デラはジムに寄り添い、事の次第を語ります。ジムはしばらくぼうっとしていました。デラを抱きしめました。そしてポケットから包みを取り出し、机の上に置きました。それは、デラがずっと欲しがって、けれども高価なのであきらめていた、長い髪のためのとても美しい櫛だったのです。そしてジムはそれを買うために、大切な金の時計を売ってしまったのでした。

人の気持ちがわかる人間になりたい



● 思いやりとはどのようなことだろう。あなたの考えを書いてみよう。



# saying

この人のひと言

他人に対しても自分に対しても親切であること。  
人の生きるのを助け、自分自身の生きるのを助けること。  
これこそ真の思いやりである。

アラン

■エミール＝オーギュスト・シャルティエ (1868～1951)

フランスの哲学者。『幸福論』など。

人を憂える、ひとの淋しさ侘しさ、つらさに敏感な事、  
これが優しさであり、  
また人間として一番優れている事じゃないか。

太宰治

■だざい おさむ (1909～1948)

小説家。『走れメロス』『人間失格』など。

優しい言葉は、短くて簡単なものであっても、  
ずっとずっと心にこだまする。

マザー・テレサ

■マザー・テレサ (1910～1997)

貧しい人々の救済に尽くした修道女。

● あなたの見つけた言葉、考えたこと。

# message

メッセージ

地震の第一報は、米テキサス州ヒューストンで聞きました。現地時間三月十日の午前零時頃。JAXA(宇宙航空研究開発機構)筑波宇宙センターから、電話で「大きな地震が起きた」と知らされました。職員は建物の外に避難し、全員無事だと聞き安心したのですが、埼玉県の家族とすぐには電話が繋がらず、メールでようやく無事を確認しました。が、その後の報道に触れるにつれ、被害の甚大さに慄然としました。

アメリカでも、この地震は各局のニュースで連日取り上げられています。津波の被害の様子や、被災者の方々の生々しい映像が伝えられ、福島原発の被災も大々的に報道されています。まるで日本にいて、自国のニュースを見ているようでした。

そんな中で、各国の宇宙飛行士の仲間や宇宙開発の関係者など多くの方から「家族は大丈夫か」「筑波の皆は元気か」と、メールなどで声を掛けていただきました。「自分に何かできることはないか」と尋ねてくれる方もたくさんいました。

「被災者に救援の手を差し伸べたい。」「震災からの復興を支援したい。」「それは、世界が一つになって、日本に応援メッセージを送っているかのよう」にさえ感じられました。

アメリカでの報道では、これほどの緊急事態に陥りながら、略奪行為や暴動もなく、秩序を重んじて災害に対処する日本国民の姿が高く評価されています。皆が協力し、助け合う姿に感銘を覚えるという報道がとて多いのです。

私は、これが世界に誇れる日本人の国民性だと思えます。互いに相手を「思いやる」気持ちが強くいざとなれば皆がそれに根ざした行動がとれる。これはすばらしいことです。



日本人の『思いやり』を  
世界が見ている

若田光一

● 埼玉県出身。宇宙飛行士。宇宙航空研究開発機構(JAXA)に所属。1993年、NASA(アメリカ航空宇宙局)ミッションスペシャリスト(MS)認定。1996年スペースシャトル・エンデバー号で宇宙へ。以後2000年、09年、13年と4度の宇宙飛行を経験。2013年11月からソユーズ宇宙船でISS(国際宇宙ステーション)へ。第39次長期滞在で日本人初の船長(コマンダー)となる。



若田光一(わかたこういち) 1963～

2013年11月宇宙長期滞在に向け出発直前の若田さん



### あなたにとって友達とは？

楽しいばかりでなく  
周りのことを考えられる人

(中三・男子)

お互いに  
思いやっていていける人

(中二・女子)

良きライバルでもあり  
相談相手でもあり、信頼できる人

(中三・女子)

けんかもするけれど  
何でも話せる人

(中一・男子)

宝物  
友達がいなかったらすごく寂しい

(中一・女子)

●あなたにとって友達とはどんな存在か、考えてみよう。

●友達のために何が出来るか、考えてみよう。

## (3) 励まし合い高め合える生涯の友を

友人との関係は、楽しく、頼もしい。  
一方で、私たちはしばしば、  
その関係に不満をいだいたり、  
気まづくなったりする。

「友情は成長の遅い植物である。」

というのは初代米国大統領ジョージ・ワシントンの言葉だ。  
そして、友情という名に値するようになるためには  
幾度かの困難な打撃に耐えなければならぬ、と続く。

表面的な仲間関係にしがみついたり  
無批判に相手に同調したり、  
自分が傷つくことを恐れて心を開かない関係からは、  
真の友情は生まれなからう。

心から信頼できる友を得るために、  
私たちはどうあるべきなのだろうか。





## 見付けよう、友達の良さを

あなたのすぐ近くにいる  
彼や彼女。  
友達の「良さ」を  
見付けてみよう。



誰もが  
その人にしかない「良さ」を  
もっている。

● 友達の良い所を書いてみよう。

● 家族や人生の先輩にそれぞれの考える友情について話を聞いてみよう。

## 正岡子規と夏目漱石

俳人として、また俳句や短歌の研究者として大きな業績を残した正岡子規と、我が国を代表する小説家・夏目漱石は、大学時代からの親友でした。二人が親しくなるきっかけは、共に好きな寄席の話題でした。漱石が英語教師として松山に赴任した際には、漱石の宿舎に子規が居候し、共に俳句づくりで没頭しました。

子規と漱石は日頃からしばしば手紙のやりとりをしていました。子規は、二十一歳の頃から病気がちとなり、次第に床に伏すことも多くなります。

明治三十三（一九〇〇）年に漱石がロンドンに留学する頃には、子規の病状はかなり悪くなっていました。留学した漱石は、病気の子規を慰めるため、ロンドンの人々の様子や下宿先での生活についてユーモアを交えて手紙に書き、子規に送ります。子規はそれを喜び、「ロンドン倫敦消息」として雑誌「ホトトギス」に掲載しました。

明治三十四（一九〇一）年十一月、病状の悪化に苦しむ子規は、ロンドンの漱石に手紙を書きます。僕はもう駄目になってしまった、毎日涙もなく号泣している、とつづり、ただ漱石がくれた手紙は非常に面白かった、君の手紙を見て西洋に行ったような気になって愉快でたまらない、もし書けるなら自分の目があるうちに今一便くれなにか、と頼みました。しかし、自らも体調を悪化させていた漱石は、更なる手紙を書くことができませんでした。

子規は、漱石の帰国を待たず、明治三十五（一九〇二）年に三十四歳で亡くなります。漱石の胸には深い悔恨が残ったことでしょう。漱石は、後に自らの出世作となった「吾輩は猫である」の序文で、子規への哀悼の気持ちを述べ、この作品を亡き友にささげています。



夏目漱石



正岡子規

## saying

この人のひと言

空気と光と  
そして友達のア。これだけが残ってれば  
気を落とすことはない。

### ゲーテ

■ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (1749~1832)

ドイツの詩人、劇作家、小説家。『若きウェルテルの悩み』『ファウスト』など。

しばらく二人で黙っているといい。  
その沈黙に耐えられる関係かどうか。

### キルケゴール

■セーレン・キルケゴール (1813~1855)

デンマークの思想家。実存主義の先駆者。

私は世界にふたつの宝をもっていた。  
私の友と私の魂と。

### ロマン・ロラン

■ロマン・ロラン (1866~1944)

フランスの作家。『ジャン・クリストフ』『魅せられた魂』など。

●あなたの見付けた言葉、考えたこと。

## message

メッセージ

日本を代表する世界有数の自動車メーカーの創業者本田宗一郎さんは、会社が大きくなっても作業服で製造現場に顔を出し社員を叱咤激励していたことで知られる。本田さんはもっぱら技術畑でその才能を発揮し会社を大きくしてきたが、その彼をして「藤沢がいなかったら会社はとつくとつに潰れていた。」といわせる人物がいた。藤沢武夫さんは、本田さんの会社の販売・経理を一手に担い、生涯、共に支え合ってきた間柄である。

その出会いは昭和二十四(一九四九)年、本田さんが会社をつくって三年目だった。本田さんは会ってすぐに藤沢さんを会社に誘い、常務取締役候補に抜擢した。それは会った瞬間の直感だったという。本田さんは後年、「創立期に藤沢武夫って経営の名人に巡り合えて、二十数年も一緒に仕事をしてきた。世間の人たちは、俺と藤沢のことを水と油とか、太陽と月だとかに例えて言っているようだけれど、若いころに腹をぶち割って話し合い、互いの長所を心底認め合ったんだ。ちよつとやそつとじゃ壊れる仲じゃない。男同士の友情なんて派手な言葉は好きじゃないが、他人に友情を求めるなら相手の秘密を絶対に守ること。人間親しくなれば当然相手の不可侵領域まで立ち入るようになる。それを軽々しく他人に喋るようじゃ、友情だの信頼だのが成り立つわけがないよね。」と語っている。

「世界には四十五億(当時)も人間がいるが、みんなと付き合うわけにはいかない。藤沢と僕の出会いはその代表みたいなもので、藤沢はいわば四十五億の代表ですから。」

本田さんにとって藤沢さんは、かけがえない友であった。「友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粹な美しいもの一つだと思ふ。友情を交わす友人のいることは、その人の人生にとって非常に大きなプラスである。」

これも本田さんの言葉だ。



友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粹な美しいものの一つだと思ふ。

本田宗一郎

●静岡県出身。自動車メーカーの創業者、技術者。自動車修理工場で働いた経験を生かし、昭和21(1946)年浜松市に会社を設立。その後、のちの副社長となる藤沢武夫に出会い、共に会社の発展に尽くした。



本田宗一郎(ほんだそうちろう) 1906~1991

本田宗一郎さん(左)と藤沢武夫さん



## 互いによりよく理解するために

中学生は異性について互いにどのように考えているのだろうか。

ある中学生の男女に「異性のここが好きだ・嫌だ」と思うところを尋ねてみた。

あなたにも共通した考えや思いがあるだろうか。

異性のここが好きだ	異性のここが嫌だ
さっぱりしている	落ち着きがない
優しい	うるさい
器用	デリカシーがない
自分とは違うものをもっている	自分勝手
ねばり強い	すぐ怒る
面白い	集団になってせめてくる
けんかしてもすぐ仲直りできる	けじめがない
	自己中心的

でも、本当にそうだろうか？  
それは全ての異性に言えること？  
それは異性にだけに言えること？

●自分の考えを書いてみよう。友達とも話し合ってみよう。

男女は、社会の対等な構成員であり、家庭においても、学校や職場においても、互いに協力し、共に責任を担うことにより、望ましい社会生活が営まれる。

一個の独立した人格として互いを尊重し合うことが必要なのは、男性も女性も変わらない。

一方で、思春期の真っただ中、小学校の頃とは違った意識で、互いを見始め、気になって仕方ないこともある。

異性の特性や違いを受け止めた上で、相手を理解し尊重し合うことができるようになるためにはどうすればよいのだろうか。



# (4) 異性を理解し尊重して

## 社会は男女互いの力で成り立っている

我が国は男女共同参画社会の実現を目指している。

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」(男女共同参画社会基本法第2条)のことである。



- なぜ男女共同参画社会の実現が必要なのか、その実現に向けてどのような課題があるのか、考えてみよう。友達とも話し合ってみよう。

## 好きな異性がいるのは自然なこと

中学生で、好きな異性や意識してしまう異性がいるのは不思議ではない。

むしろそれは自然な気持ちで、大切にしなければならない気持ちだ。

この気持ちを、明日を生きるエネルギーにできたらいいと思う。

だけど、二人だけの殻に籠もってしまうと、

周りが見えなくなって、

人間としての幅を狭めてしまうこともあるかもしれない。

考えてみよう、男女交際の在り方を。



- 「中学生の男女交際」について考えてみよう。友達とも話し合ってみよう。



# saying

この人のひと言

尊敬ということがなければ  
真の恋愛は成立しない。

フィヒテ

■ヨハン・ゴットリープ・フィヒテ (1762~1814)  
ドイツの哲学者。『ドイツ国民に告ぐ』など。

女に大切なものは  
男にも同じく大切な筈である。

与謝野晶子

■よさの あきこ (1878~1942)  
歌人。『みだれ髪』など。

愛とは他人の運命を自分の興味とすることである。  
他人の運命を傷つけることを畏れる心である。

倉田百三

■くらた ひやくぞう (1891~1943)  
劇作家、評論家。『出家とその弟子』など。

● あなたの見付けた言葉、考えたこと。

# column

人物探訪

「亭主が東を向けと命令すれば三年間でも東を向いているような御婦人はごめんです。」……これは同志社大学の創設者新島襄が、結婚相手は日本人、外国人いずれから迎えるのか、という問いに「日本の婦人と結婚したい。」と述べた後に付け加えたといわれる、よく知られたコメントです。そしてその理想にならな女性も、八重でした。明治初期、まだまだ女性の社会的地位が低かった日本の世の中。アメリカで先進の社会を目の当たりにした新島襄は、そのような古い日本の因習を打破したいという気持ちも強くもつていたのでしょう。

「彼女は決して美人ではありません。しかし私が彼女について知っているのは、美しい行いをする人 (a person who does handsome) だということです。」  
これは襄がアメリカの知人への結婚報告で、八重を紹介した言葉です。

夫の襄は、男女の性差による社会的立場の違いに大きな疑問を抱いていた人ですから、こうした八重の生き方を理解し、尊重したのでした。

しかし当時の社会的風潮は、対等な男女の関係には否定的でした。そのような環境でも、八重は、襄が設立を目指す同志社の運営に積極的に関わり、大きな役割を果たします。また、襄の死後は篤志看護婦となつて日清戦争、日露戦争に従軍し傷病兵の看護に当たりました。



“... she is a person who does handsome.”  
(新島襄が妻の八重を紹介した言葉)

- 会津藩出身。砲術師範の家に生まれ、砲術に強い関心を持ち、その技術を身につけた。会津戦争では断髪し男装して若松城籠城戦に参加した。
- 明治維新後京都にて女紅場(後の京都府立第一高等女学校)に勤務。新島襄と出会い、結婚し、同志社の設立に尽力する。
- 夫の死後、日本赤十字社の正会員となり、看護師の地位の向上に努めた。



新島八重 (にいじまやえ) 1845~1932

女学校の卒業式で。右から3人目が八重。